

電気工学専攻博士後期課程の竹内嵩さんが「学生優秀発表賞」を受賞しました。

平成26年度電子情報通信学会電磁界理論研究会の表彰式が2015年3月10日に立命館大学にて行われ、電気工学専攻博士後期課程の竹内嵩さんが「学生優秀発表賞」を受賞しました。

対象論文は、第43回電磁界理論シンポジウムで発表が行われた「Maxwell-Schrödinger 方程式に基づく新規光制御パルス設計法の検証」です。

研究内容は、光パルスによる粒子の量子状態制御方法の開発となっています。先行研究では光パルスの数値設計の際、粒子から場へのフィードバックを無視する方法が広く用いられていました。それに対しこの報告では、Maxwell-Schrödinger 方程式に基づくマルチフィジックスシミュレーションを用い、光と物質の相互作用を正確に考慮した設計法を提案しました。結果、従来より非常に安定性の高い制御パルスを設計することに成功し、これらのことが高く評価され、今回の受賞に至りました。

